

半田市は、全国に先駆けて非核平和の実現に関する議会議決を行いました。また、日本非核宣言自治体協議会並びに平和首長会議にも加盟し、非核平和の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

その取り組みのひとつとして、次代を担う若者たちに平和の大切さを知ってもらうための「広島平和ツアー」を実施しています。

今年は、青山中学校と半田中学校の生徒8人が体験学習を行いましたので、その体験記を紹介します。

また、原爆パネル展にあわせて、市民のみなさんに作っていただいた6千羽の折鶴を、平和を祈念する「千羽鶴」として、中学生が広島へ届けました。

みなさんご協力ありがとうございました。

平和への 想い

広島平和ツアー 体験記



齊田理花さん(青山中学校2年)

1945年8月6日。あの日のことを考えたことのある人は多いことだろう。では、それを踏まえ、「これから私たちにできること」を考える人は、どのくらいいるだろうか。私たちは今回、原爆ドームをはじめ“あの日”を伝えていく建造物、施設のいくつか足を運んだ。どの場所でも伝えていたことは同じだった。〈あの日の恐怖を二度と繰り返すな〉というメッセージ——。しかし、「どのように」の部分があった。これに関しては、未来を担う私たちに考える責任があるのではないだろうか。あの悲劇を繰り返さないためにはどうしていくべきか。たった一人でどうできることではないだろう。私は、みんなが「憎しみをもちず、思いやりをもち合うこと」が大切だと思う。みんなの愛情から生まれる平和。とても素敵だと思う。今回このツアーで学べたことは、一生忘れない。とても良い経験ができた。

渡邊隼人くん(半田中学校2年)

広島平和記念資料館には、入口から入ってすぐ右手に、地球平和監視時計というものがあります。その時計に数字がデジタル表示される欄が二段ついていて、一段目は広島に原爆が投下されてから経った日数、二段目は最後の核実験からの日数が表示されています。僕が印象に残ったのは、二段目の表示です。僕達が見に行ったときは、216日という表示でした。つまり、最後に核実験が行われてから一年も経過していないということです。つい最近まで核実験が行われていたんだと思うと、少し恐くなりました。もう二度と日数が0日にリセットされないように祈ります。そもそも、原爆はなぜ作られるのでしょうか。アメリカのように、原爆のおかげで戦争が終わったというのも一つの考え方かもしれません。しかし、その原爆によって広島、長崎で惨劇が起きたことは紛れもない事実です。そのことは、日本人だけでなく、世界中の人も絶対に忘れてはいけない事だと思っています。